

平成二十四年三月号からの規定課題

終南山 しゅうなんざん

王維 おうい

通釈

註

太乙は終南山のこと。分野は区劃されたもの、所。

太乙近天都

太乙天都に近く

終南山は天帝の都近くまで聳え

連山到海隅

連山海隅に到る

山なみは東方の海にまで連なる

白雲廻望合

白雲望を廻らせば合し

振り返ると白雲が来た道を閉ざし

青靄入看無

青靄看に入つて無し

行く手は青い靄で手にも取れない

分野中峰變

分野中峰変じ

山は国々の分轄の基点に用いられ

陰晴衆壑殊

陰晴衆壑殊なり

谷は晴れ曇りの明暗を見せている

欲<sub>下</sub>投入處宿<sub>上</sub>

人処に投じて宿せんと欲し

どこか近くに宿る人家はないかと

隔<sub>レ</sub>水問<sub>二</sub>樵夫<sub>一</sub>

水を隔てて樵夫に問う

大声で川向うの樵夫に声をかけた